



2022年6月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2022年5月13日

上場会社名 株式会社ビーブレイクシステムズ
 コード番号 3986 URL <https://www.bbreak.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長
 四半期報告書提出予定日 2022年5月13日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 白岩 次郎
 (氏名) 熊田 圭一郎
 TEL 03-5487-7855

(百万円未満四捨五入)

1. 2022年6月期第3四半期の業績(2021年7月1日～2022年3月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年6月期第3四半期	960	11.2	144	70.0	144	69.9	108	69.6
2021年6月期第3四半期	863	4.2	85	35.4	85	35.4	64	35.2

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年6月期第3四半期	70.34	
2021年6月期第3四半期	41.47	

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年6月期第3四半期	1,900	1,425	75.0
2021年6月期	1,721	1,335	77.6

(参考) 自己資本 2022年6月期第3四半期 1,425百万円 2021年6月期 1,335百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年6月期		0.00		12.00	12.00
2022年6月期		0.00			
2022年6月期(予想)				12.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年6月期の業績予想(2021年7月1日～2022年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,254	7.5	145	20.4	145	20.3	109	19.1	70.93

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P.5「2. 四半期財務諸表及び主な注記(3) 四半期財務諸表に関する注記事項(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P.5「2. 四半期財務諸表及び主な注記(3) 四半期財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年6月期3Q	1,536,960 株	2021年6月期	1,536,960 株
期末自己株式数	2022年6月期3Q	196 株	2021年6月期	196 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年6月期3Q	1,536,764 株	2021年6月期3Q	1,536,774 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P2.「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期貸借対照表	3
(2) 四半期損益計算書	4
第3四半期累計期間	4
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	5
(継続企業の前提に関する注記)	5
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	5
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	5
(会計方針の変更)	5
(セグメント情報等)	5

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、個人・法人ともに活動が制限される中、ロシアのウクライナ侵攻により地政学リスクが顕在化するなど、先行きが不透明な状況で推移しました。

当社が属する市場および顧客においては、足下の企業のシステム投資ニーズは安定しており、エンジニアの需要も高水準を維持しているものの、今後の状況については予断を許さないものと考えております。

こうした環境の中、当社は、“ITで経営の今を変える、未来を変える”のコンセプトメッセージを掲げ、クラウドERP「MA-EYES」を中心としたパッケージ事業や、システムインテグレーション事業の強化に努めてまいりました。

この結果、当第3四半期累計期間の業績は、売上高960百万円（前年同四半期比11.2%増）、営業利益144百万円（同70.0%増）、経常利益144百万円（同69.9%増）、四半期純利益108百万円（同69.6%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

①パッケージ事業

主力商品であるクラウドERP「MA-EYES」について、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け一時的に新規受注が減少していた前期からの回復分、及び、既存ユーザーからの追加開発に関する受注や、保守料及びSaaS版の利用料が増加したことなどから、売上高は613百万円（前年同四半期比22.1%増）、セグメント利益は279百万円（同37.5%増）となりました。

②システムインテグレーション事業

パッケージ事業の増収に伴い、本事業から一部エンジニアを同事業にシフトさせたこと、及び、不足したリソースを外部パートナーから調達し原価率が上昇したことなどから、売上高は347百万円（前年同四半期比3.9%減）、セグメント利益は78百万円（同13.2%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末の総資産は1,900百万円となり、前事業年度末に比べ179百万円増加いたしました。これは主に、売上規模の堅調な推移に伴う現金及び預金の増加によるものであります。

当第3四半期会計期間末の負債合計は475百万円となり、前事業年度末に比べ89百万円増加いたしました。これは主に、賞与引当金や、パッケージ事業の新規受注および保守やSaaS版利用料に係る前受金（契約負債）の増加によるものであります。

当第3四半期会計期間末の純資産合計は1,425百万円となり、前事業年度末に比べ90百万円増加いたしました。これは、四半期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想については、2022年2月14日の「業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年6月30日)	当第3四半期会計期間 (2022年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,479,840	1,716,398
売掛金	171,355	—
売掛金及び契約資産	—	118,595
仕掛品	—	424
前払費用	9,581	5,363
未収収益	1	—
その他	99	319
流動資産合計	1,660,877	1,841,099
固定資産		
有形固定資産	177	115
無形固定資産	1,134	—
投資その他の資産		
敷金	24,121	24,121
繰延税金資産	34,380	34,380
投資その他の資産合計	58,501	58,501
固定資産合計	59,812	58,616
資産合計	1,720,689	1,899,715
負債の部		
流動負債		
買掛金	17,790	21,165
前受金	179,309	—
契約負債	—	222,125
未払金	7,165	3,003
未払費用	17,413	8,947
未払消費税等	19,925	21,957
未払法人税等	22,627	20,575
未払事業所税	1,615	1,242
預り金	18,194	4,832
賞与引当金	—	49,927
受注損失引当金	403	—
アフターコスト引当金	—	1,366
未払配当金	190	224
流動負債合計	284,631	355,362
固定負債		
退職給付引当金	101,137	119,781
固定負債合計	101,137	119,781
負債合計	385,768	475,143
純資産の部		
株主資本		
資本金	232,632	232,632
資本剰余金	286,063	286,063
利益剰余金	816,668	906,318
自己株式	△441	△441
株主資本合計	1,334,921	1,424,572
純資産合計	1,334,921	1,424,572
負債純資産合計	1,720,689	1,899,715

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2020年7月1日 至 2021年3月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)
売上高	863,341	959,845
売上原価	474,418	509,427
売上総利益	388,922	450,418
販売費及び一般管理費	303,999	306,079
営業利益	84,923	144,340
営業外収益		
受取利息	13	14
雑収入	71	76
営業外収益合計	84	91
営業外費用		
雑損失	1	—
営業外費用合計	1	—
経常利益	85,006	144,430
税引前四半期純利益	85,006	144,430
法人税等	21,273	36,338
四半期純利益	63,733	108,092

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これにより、受注制作のソフトウェアに係る契約に関して、開発の進捗部分について成果の確実性が認められる場合には工事進行基準を、この要件を満たさない場合は工事完成基準を適用しておりましたが、履行義務を充足するにつれて、一定の期間にわたり収益を認識する方法に変更しております。なお、履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積もることが出来ない場合は、原価回収基準を適用しております。また、本人・代理人の検討の結果、システムインテグレーション事業に係る取引の一部が代理人に該当したため、純額で収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高および売上原価が1,073千円減少しておりますが、営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益への影響はありません。また、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「売掛金」は、第1四半期会計期間より「売掛金及び契約資産」に含めて表示することし、「流動負債」に表示していた「前受金」は、第1四半期会計期間より「契約負債」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前事業年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」

(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自 2020年7月1日 至 2021年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	パッケージ事業	システムインテ グレーション事 業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	502,023	361,317	863,341	—	863,341
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	502,023	361,317	863,341	—	863,341
セグメント利益	203,109	89,929	293,038	△208,115	84,923

(注) 1. セグメント利益の調整額△208,115千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期累計期間(自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	パッケージ事業	システムインテ グレーション事 業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	612,780	347,065	959,845	—	959,845
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	612,780	347,065	959,845	—	959,845
セグメント利益	279,223	78,044	357,267	△212,927	144,340

(注) 1. セグメント利益の調整額△212,927千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。